

「歴史まちづくりトーク in 有松」を開催しました

3月23日(土)に、有松・鳴海絞会館にて、クリス・グレンさん(ラジオDJ/日本歴史研究家)・原知之さん(川越蔵の会 会長)のご講演と、有松のまちづくり活動等に関わる方々のリレートークを実施しました。当日は100名以上の幅広い世代の来場者があり、有松の歴史や文化の魅力を楽しく共有することができました。

第I部 ゲストによるご講演



クリス・グレンさん
(ラジオDJ/日本歴史研究家)

有松の「有」は本物の歴史や文化が「有(ある)」ということ

『どうも、どうも、どうも！クリス・グレンです。私は日本の歴史・文化が大好きです。甲冑師に弟子入りをして自作の甲冑を製作したり、日本の戦国時代の歴史を研究したりしています。去年は有松の山車祭りにも参加しました。』

『外国人が日本に来るときに見たいものは、何と言っても本物の歴史・文化です。日本人はもっと日本の歴史・文化の素晴らしさを知り、大切にしてほしいと思います。』

『有松には私が大好きな宮本武蔵も通った東海道がそのまま残っており、歴史上の人物の足跡をたどることができます。有松には本物の歴史や文化が「有(ある)」のだと思います。』

町並みをいかしたまちづくりで、まち全体が活性化しました

『蔵造りの町並み残る川越一番街商店街は、以前は人通りが少なく寂しい町でしたが、町並みをいかしたまちづくりに取り組んでから、多くの来訪者が来るようになり、まちが活性化しました。』
『蔵の会では、蔵の中でのお茶会やまちかどミュージアム等のイベント、子ども向けのワークショップ等を実施しています。』
『地元住民、建築の専門家、行政など多様な人々が対等な立場に立って住民主体のまちづくりを進めてきました。町並みや観光だけでなく、住環境向上など地元住民の生活も重視したまちづくりに取り組んできたことが成功につながったと考えています。』



原知之さん
(川越蔵の会 会長)

第II部 リレートーク

有松に関わる様々な人々が有松の魅力を語りました！

有松においてまちづくり活動等に関わる人や、若手の絞り関係者、町並みの専門家などが集い、様々な分野において有松のまちを対象とした意欲的な取り組みが行われていることが報告されました。



山上正晃さん
(無電柱化の会)



藤井祥二さん
(名市大学生)



山田修生さん
(町家所有者)



中津野真紀さん
(書家)



溝口正人さん
(名市大教授)



北山めぐみさん
(奈良女子大学生)



川口康生さん
(有松商店会)



浅野康子さん
(あないびとの会)

有松の歴史をいかしたまちづくりへのご意見やご質問は、歴史まちづくり推進室にお寄せください

名古屋市 住宅都市局 歴史まちづくり推進室 担当：坂崎、栗並

TEL:052-972-2782 FAX:052-972-4485 E-mail:a2782@jutakutoshi.city.nagoya.lg.jp



有松町並み保存地区の現状と課題に関する説明会を開催します

名古屋市では、有松の歴史的町並みを活かしたまちづくりの推進に向けて、昨年度より建物や町並みの調査を実施していますが、調査と平行して、住民の皆さんのご意見をお聞きしながら町並み保存地区の見直しを含め、今後のあり方を検討・具体化していきたいと考えています。

つきましては、町並み保存の現状と課題の説明とあわせて、住民の皆さんのご意見をお聞きするための説明会を町内会ごとに開催いたします。是非、ご参加ください。

★説明会の日時と場所

対象町内	日時	場所
有松 中町	8月19日(月) 19:00~	有松コミセン(1階)
有松 西町	8月20日(火) 19:00~	有松コミセン(1階)
有松 東町第一	8月21日(水) 19:00~	有松・鳴海絞会館
東丘 第二 東丘 第三 太子 第一	8月27日(火) 19:00~	東丘コミセン

※各日の説明内容は同じです。
※対象町内以外の方にもご参加頂けます。ご都合の良い日にお越しください。



町並み調査の中間報告会を開催しました

4月13日(土)に、有松小学校にて、有松の町並み調査の中間報告会を開催しました。調査を担当された大学の先生方から、有松の町並みの成り立ちや特徴についてのご報告を頂きました。

約40名の地域の皆さんにご参加いただき、「新たな発見が多くあり、有松の町並みの価値が再認識できた」などの感想が聞かれました。

⇒概要を中面にまとめましたので、ご覧ください。



今後の予定

- ・昨年に引き続き、8月下旬に東海道沿いの町家の実測調査を実施する予定です。調査は名古屋市立大学、愛知工業大学、名古屋工業大学の先生方と学生さんが行います。調査へのご協力をお願いいたします。
- ・有松の歴史まちづくりや町並み保存に関する説明会などを、今後も随時開催していきます。

「町並み調査の中間報告会」のあらまし

名古屋市では、平成24～25年度の2力年にわたり有松の町並み調査を実施しており、24年度には約30戸の建物の実測調査等を実施しました。4月13日に、調査を担当された大学の先生方から中間報告をしていただきましたので、その概要をお伝えします。

調査を担当された先生方
 ・名古屋市立大学 溝口正人教授、向口武志准教授
 ・愛知工業大学 野々垣篤准教授、岩田敏也講師
 ・名古屋工業大学 是澤紀子准教授

■有松の建物分布 ～伝統工法の建物は東海道沿いに集中して分布～

町並み保存地区内の建物の用途、階数、構造等の調査を行った結果、町家などの伝統工法で建てられた建物は、特に東海道沿いに集中して分布していることが分かりました(下図参照)。

地区内の建物の階数は2階建の建物が最も多く(全体の約60%)、ほとんどの建物は3階建以下となっています。また、建物の用途は住宅が最も多く(全体の約70%)、店舗及び店舗併用住宅は全体の約15%となっています。



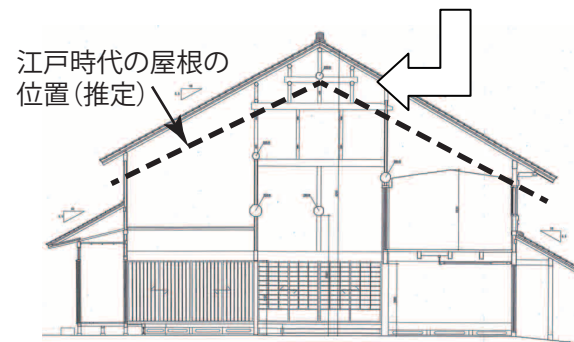
■有松の町家建築

～江戸時代の有松の町家は、背が低かった!?～

棟札の発見や屋根裏の構造の確認等により、有松の町家の建築年代がある程度判明し、時代ごとの建築様式の特徴も明らかになってきました。

江戸期の有松の町家は総じて2階が低く、物置程度の高さしかありませんでしたが、明治期以降に改造して2階を高くしている建物が多数確認されました。

また、有松の町家の特徴としては、切妻・平入形式の屋根、黒色棧瓦、深い庇、1階正面の格子建具、しっくい塗りの土壁、広い間口などの特徴が確認されました。なお、1階正面の格子建具については、江戸期の浮世絵には描かれておらず、明治期以降に採り入れられたものと考えられます。



現在の町家の断面図



浮世絵に描かれた江戸期の有松の町家 正面は通行人に広く開放されている



現在の有松の町家 正面に格子建具が採り入れられている



格子建具になる以前の吊り戸が残っている町家も

■有松の祭礼

～天満社秋季大祭にみるコミュニティの広がり～

天満社秋季大祭について調査し、有松の町並みを支えるコミュニティや地域文化について考察しました。

現在、山車の曳行は東海道のみですが、昭和32年以前は、東は境松、南は地藏池まで曳行されていました。

代々、旧町内(西町・中町・東町)の出身者が中心となり山車の曳行が行われてきましたが、近年は旧町内以外の氏子区域(大字桶狭間や旧鳴海町方面)からの参加者も多く、祭りの担い手が広範囲に広がる傾向が確認されました。



旧山田薬局で「家原利明 展覧会」が開催されます

東海道沿いの町家「旧山田薬局」において、8/24～9/16に、画家の家原利明さんの展覧会が開催されます。開催に向けて現地で準備を行っている家原さんにお話をうかがいました。

一家原さんはどのような活動をされているのですか?

普段は絵を描いており、専門学校の講師もしています。作品を描くときは依頼主とよくお話しし、その人・その場所にあった絵を描くことを心がけています。



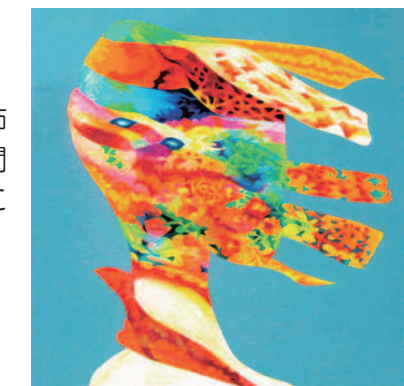
薬局のお掃除中の家原さん

なぜ、有松の町家(旧山田薬局)で展覧会を開くことになったのですか?

私は有松小・中学校の出身なんです。昨年の展覧会は東区の「文化のみち榎木館」で開催しましたが、今年は地元で開催したいと考えていました。絞りまつりの時に旧山田薬局を覗く機会があり、薬局の部屋の独特な雰囲気を目撃して惹かれ「ここだ!」と思って決めました。

どのような展覧会になりそうですか?

掃除をしながら考えているところです。薬局の店舗を中心に作品を飾ろうと考えています。収集したコレクションも展示する予定です。期間中はここに常駐し、訪ねて来た方とお話したいです。我が家に遊びに来てもらう感じでおもてなしできたらと考えています。



有松のまちについて、家原さんの想いをひとこと。

小さい頃は、絞りや町並みは当たり前のものだと思っていました。有松の外に出てから、有松の良さを意識するようになりました。昔と比べて「昭和の雰囲気」が少なくなったのは残念ですが、色々な方に展覧会に来てもらい「有松は良いまちだな」と感じてもらうきっかけができればと思っています。

日時 2013.8.24～9.16(無休) 10:30～18:30
 場所 旧山田薬局(有松1881)
<http://www.ieharatoshiaki.com>